

2026 ぶら多摩クラブ・ウォーキング 108 神田川

(すこし番外編) 文京区、新宿区、千代田区



神田上水沿いを歩く

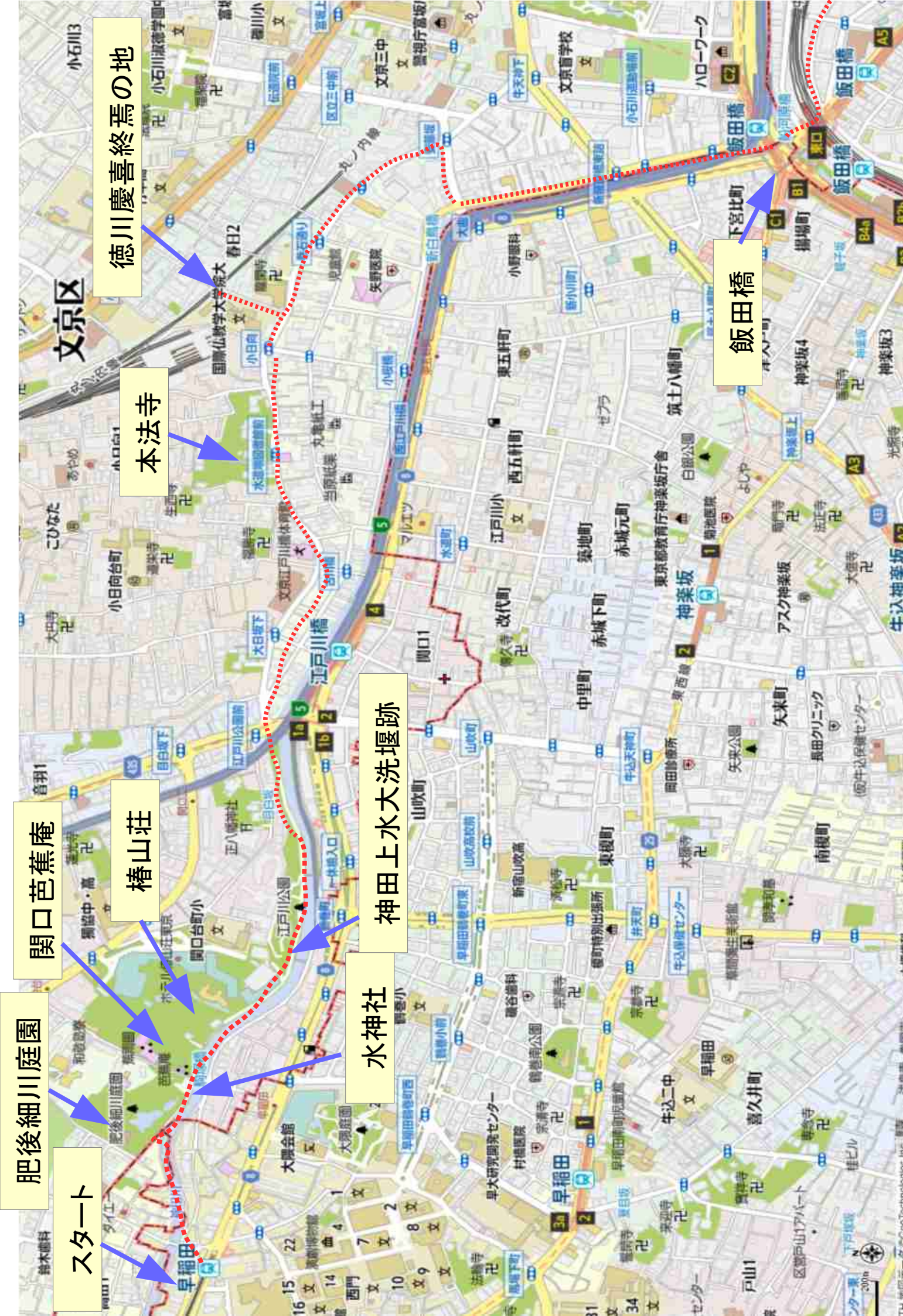
2月13日(金) 地下鉄東西線 早稲田駅 3a の外(地上) 10時集合

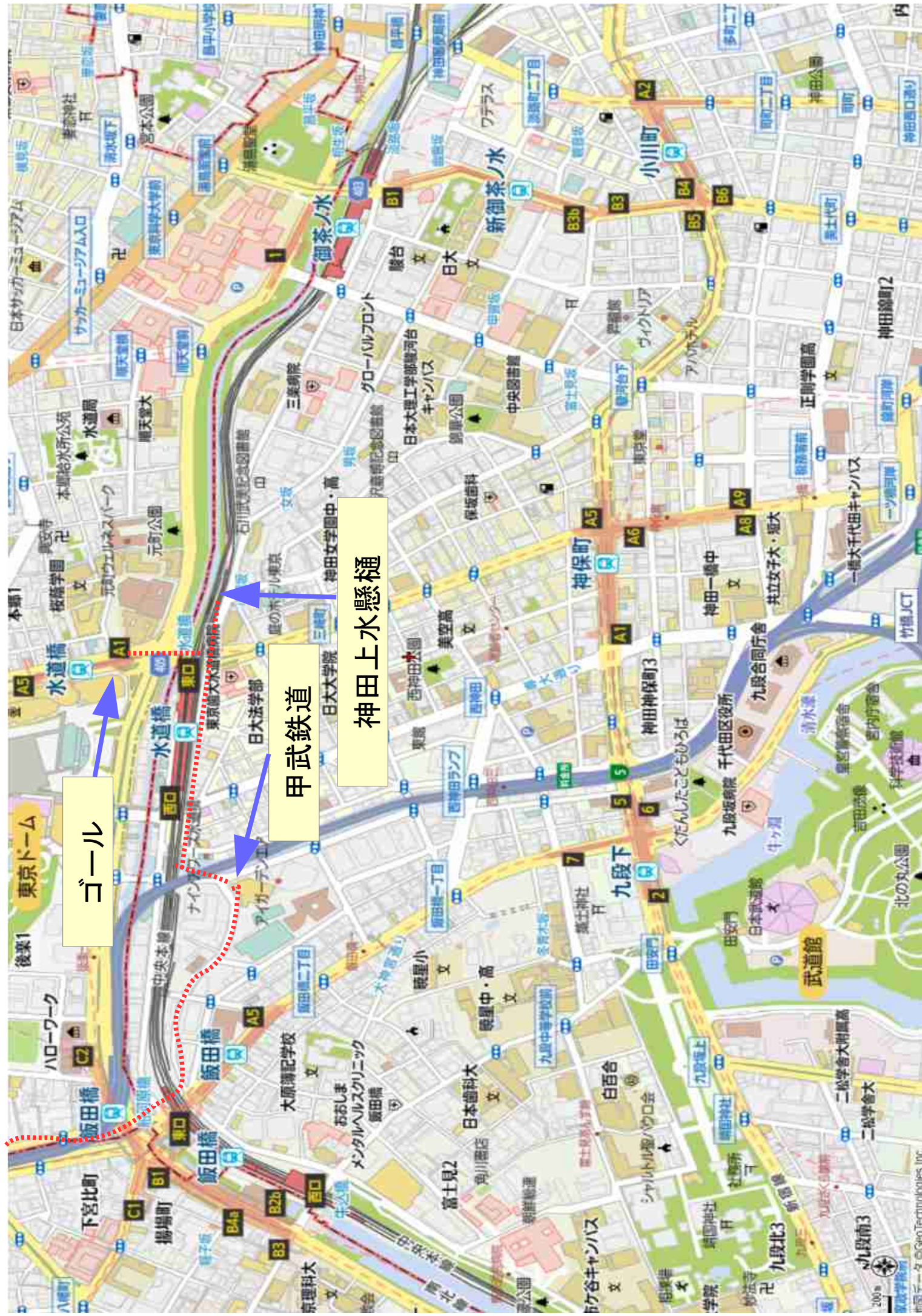
コース： 早稲田駅⇒肥後細川庭園⇒水神社⇒関口芭蕉庵⇒椿山荘⇒神田上水大洗堰跡⇒本法寺⇒徳川慶喜終焉の地⇒飯田橋⇒甲武鉄道⇒神田上水懸樋⇒水道橋駅

約9km

昼食は 飯田橋駅付近のレストランで

申込期限：2月10日(火)





I はじめに

神田上水

徳川家康の命を受けた、大久保藤五郎によって整備されました。三鷹市の井の頭池に源を発し、流れていた神田川（平川）を関口大洗堰で、流れてきた水の水位を上げて取水し、上水として水戸藩の上屋敷に入り、邸内の飲料水や生活用水及び庭園の池水に使われました。水戸屋敷を出た上水は御茶ノ水の懸樋で神田川を横切り、まず神田の武家地を給水しました。そこから三手に分岐し、一つは神田橋を経て、道三堀北側の大名屋敷に、もう一つは神田川北岸の武家地に、そして最後の一手は神田川南岸の武家地及び町人地に給水しました。町人地に向かう水は二手に分かれ、一方は日本橋北側・内神田を、もう一方は日本橋南側を給水しました。

神田上水の竣工年は定かではありませんが、寛永年間(1624～1645)に完成したといわれています。明治維新後も神田上水は東京市民の飲料水でしたが、1886(明治19)に発生したコレラの大流行で、改良水道の創設が急務となり、玉川上水の導水路を利用して多摩川の水を新しく建設された淀橋浄水場に導き、水を沈殿濾過させた後、ポンプあるいは自然流下させました。1898年(明治31年)には大部分が完成し、同年12月に日本橋及び外神田を除く神田両地区に通水が開始されました。(後に日本橋、外神田にも通水されている)。そして、1901年(明治34年)6月に神田上水の給水が完全に停止されました。

II 見どころ

1. 肥後細川庭園

肥後細川庭園は、目白台台地の自然景観を活かした池泉回遊式庭園です。この公園周辺は、江戸中期以降は旗本の邸地になり、江戸末期には清水家や一橋家の下屋敷となりました。そして幕末には熊本54万石の細川侯の下屋敷に、明治15年には細川家の本邸となりました。その後は東京都が買収し昭和36年に「新江戸川公園」として開園し、昭和50年に文京区に移管されました。



2. 水神社

水神社は、文京区目白台にある神社です。水神社の創建年代等は不詳ながら、神田上水が開かれて以来、関口水門の守護神として祀られてきたと



います。

3. 関口芭蕉庵

東京都文京区関口にある史跡。かつて松尾芭蕉が神田上水の改修工事に携わった際に住んでいた住居跡が元になっている。敷地内は芭蕉堂や庭園、池などからなっている。

4. 椿山荘

武蔵野台地東縁部にあたる関口台地に位置し、神田川に面したこの地は、南北朝時代から椿が自生する景勝地だったため「つばきやま」と呼ばれ、江戸時代には久留里藩黒田家の下屋敷がありました。

明治維新を経て西南戦争の功により、元勲の山縣有朋は年金 740 円を与えられ、それを元手



に 1878 年（明治 11 年）旧屋敷を購入。「椿山荘」と命名して趣味である作庭を行いました。1918 年（大正 7 年）には藤田財閥の二代目当主藤田平太郎男爵がこれを譲り受け、東京での別邸としました。

1948 年（昭和 23 年）に藤田興業（現：DOWA ホールディングス）の所有地となり、その後 1 万余の樹木が移植され、1952 年（昭和 27 年）から宴会場・結婚式場の営業を開始。1955 年（昭和 30 年）に藤田興業の観光部門が分離して、藤田観光が発足すると椿山荘の運営は移管されました。

1970 年代に入ると藤田観光では、椿山荘内にも宿泊施設が早晚必要であるという考えから、1978 年（昭和 53 年）に敷地内の再開発計画に着手。1983 年（昭和 58 年）に宴会棟を完成させ、フォーシーズンズ・ホテルズ&リゾーツとの提携を下に、1992 年（平成 4 年）に「フォーシーズンズホテル椿山荘東京（FSH 椿山荘）」を開業。しかし、藤田観光は 2012 年（平成 24 年）12 月 31 日を以って、フォーシーズンズとの業務提携契約を終了。翌 2013 年（平成 25 年）、FSH 椿山荘をホテル椿山荘東京にリブランドし、総合宴会施設である椿山荘もホテルと一体運営化しました。

5. 神田上水大洗堰跡

大正末年には、水質・水量とも悪くなり、昭和8年に取水口はふさがれた。上水道として最も古い神田上水の、取水口である大洗堰跡は、永く歴史に残したいものである。



6. 本法寺

東京都文京区にある真宗大谷派の寺院。夏目漱石の実家の墓がある。なお漱石本人の墓は雑司ヶ谷霊園にある。



7. 徳川慶喜終焉の地

徳川最後の将軍、徳川慶喜（1837～1913）は、江戸開城の後水戸に謹慎、駿府に隠棲し、1897（明治30）に東京に戻り、1901（明治34）に、この地に移り住みました。1913（大正2）に、没しました。享年76歳。



8. 飯田橋

1590（天正18）、江戸開府前に徳川家康にこの地を案内したのが、土地の長老 飯田喜兵衛でした。家康は、その功を称え、一帯を飯田町と命名。1881（明治14）外堀を跨ぐ橋が架けられ、飯田橋と命名。1928（昭和3）国鉄は新駅を設置。飯田橋に近いので、飯田橋駅と命名。

9. 甲武鉄道

東京市内の御茶の水を起点に、新宿を經由して多摩郡を横断し八王子に至る鉄道を運営、保有しました。1906（明治39）公布の鉄道国有法により国有化され、中央本線の一部となりました。



10. 神田上水懸樋

神田上水は、水戸屋敷を出て、御茶の水懸樋（水道橋）で神田川を渡し、神田の武家地を給水。そこから3手に分水。（詳細は「はじめに」に記載）

（以上 wikipedia、文京区、新宿区、千代田区ウェブサイトなど参照）

